

＜学校名＞ 川越市立福原中学校
＜所在地＞ 川越市今福 5 1 2 番地
＜電 話＞ 0 4 9 - 2 4 3 - 4 1 4 0
＜本事例の特徴＞

昨年度よりインドネシアの日本人学校に在外勤務となった教員（一昨年度まで本校で勤務）と連携した取組を紹介する。オンラインによる「国際理解朝会」を実施し、日本人学校に在外勤務となった教員との交流を通して、本校生徒が質問等を行い文化の違い等を知る機会となった。

＜具体的な取組や成果＞

1 取組内容

昨年度よりインドネシアの日本人学校に在外勤務となった教員と連携を図り、「国際理解朝会」を実施した。全校生徒による朝会の時間帯（8：25～8：40）に、日本人学校に在外勤務となった教員と本校生徒のオンラインでの交流を行った。短時間ではあるが、インドネシア、スラバヤ市の紹介動画の視聴や、生徒からの質問に答えてもらった。生徒は、インドネシアの文化やインドネシアのスラバヤに住む人々の生活の様子、日本人学校について知ることができた。普段知る機会の少ない外国の文化や生活を知り、国際理解について学ぶよい機会となった。

2 方法

- （1）G o o g l e M e e t によりインドネシアの日本人学校と本校の各教室をつなぐ。
インドネシアの日本人学校に在外勤務となった教員が流したインドネシア、スラバヤ市についての紹介動画（3分ほど）を視聴した。
- （2）福原中学校の生徒から質問をする。
事前に考えておいた質問を、数名の生徒からインドネシアの日本人学校に在外勤務となった教員に質問した。
- （3）帰りの会で「振り返り」を行う。

3 成果

○生徒の感想より（一部抜粋）

- ・時差が2時間あるということでインドネシアでは6：25からこの朝会がスタートしたのがとても驚いた。
- ・インドネシアでは、必ず宗教に入ることが憲法に示されていることに驚いた。
- ・インドネシアの学校では、福原中学校で無言清掃として伝統となっている掃除がなくて、給食もないということが印象に残った。
- ・日本とインドネシアで気候が全く違うこと、道路事情が違ってバイクが多いことなど、日本では考えられないことが多くあった。
- ・ナシゴレンが日本でいうとチャーハンみたいなものだと知って食べてみたくなった。
- ・インドネシアはもっと発展途上国のイメージがあったので、高層ビルがあるなど意外

別紙 2（学校記入用）

に栄えていて、西洋風の建物にびっくりした。

- ・インドネシアの位置は知っていたけれど、今回の朝会でもっとインドネシアのことを知りたいなと思った。
- ・印象に残ったことはインドネシアが常に暑いということだった。先生の半袖姿が日本との気候の違いを感じさせた。横断歩道を渡るときに車やバイクが全然譲ってくれないのは、怖いなと思った。

○職員の感想より（一部抜粋）

- ・朝の短い時間だったが、映像を見せていただきながら説明を聴くことができたのは、画期的だと思った。素晴らしい企画だった。
- ・生徒の聴く態度、リアクションが素晴らしかった。このようなＩＣＴを活用した外国との交流は生徒にとって多くの学びの場となった。